

「久遠の蜘蛛」

シーン1 会社外 夜

(車のシーン、雑踏)

央臣 (時計をみる。もう、かなり遅い時間)

(フツと息を吐き、歩き始める)

央臣 うっぐう

(頭を抑える、ひどい頭痛のような、のたうちまわる)

央臣 はあ、はあ……ああああ！うううう、はあ、はあ、はあ……

(地面に崩れる、もがく、プレセントをおとす)

・後悔、唐突、身体、蝕み、あの時、明日、気づいた頃、後悔、結果、目の前、通り過ぎ、今、自分、どこ、わからない。

シーン2 日、関係なし

・モンタージユ、別世界のような静止した世界、僕が見た黄金の世界かも

広斗 やあ、はじめまして

央臣 ？

広斗 んん、ようこそ？……まあ状況もわかんないだろうなあ

央臣 (頭をさする)

広斗 そうそう、思い出してきた？

央臣 死ん……んだ？

広斗 大正解！やっぱり自分から自覚するってところが重要なんだよね、自分の世界の終りの自覚はここできないうし、できる人すら滅多にいないんだもんなあ、まあ、あまりにショックで声も出ないか、

央臣 ここはどこなんだ？

広斗 ここ？名前なんてないよ、どこでもないんだ、俺だつて知らない、ただ言えるのはここはもうあなたの世界じゃないってことだ。そんなことはどうでもよくて、あなたに伝えることがあつて俺はここにいるんだ

央臣 ？

広斗 俺の名前はフィッシュヴィレッジ、長いと思うなら広斗とでいいや、あなたの中には大きな後悔がある、ちがうか？やり残したこと、それがたくさんある、人間だれしも急にこの世を去ることになればだれだつて後悔はあるもんだ、そんな後悔を持ちながら普通は消えていく

央臣 ？

央臣 (イライラ、頭ぐしゃぐしゃ)

広斗 あなたは娘にとつてのなんだ？本当に父親？父親つてなんだ？

家族ってなんだ？

奥さんとヤツて子供できて終わり？父親らしいことした？じゃあ父親らしいことってなんだ？そんなもん誰もが始めてお父さんになるんだから自分で考えろよ

始めて社会にでた日みたいに焦りながら学びながら走って考えろ

そういえば会社も大丈夫か？これからなんか決めてくんじゃなかったか？

大体分かっただろうか？今の自分の状況が

央臣 (悩んだ顔)

広斗 あなたの中の後悔をなくすために、別の人間になってあなたが死んだ後の世界に生き返らせてあげよう、これは蜘蛛の糸のようなものなのさ

シーン3 家、家事をする麻里 朝朝 昼

語りを入れる？風景から、家から、家事、日常へ

・人生に意味は必要？

そんなことを考えたときもあった。けどいつのまにか人間は無意識の内に

その見えない意味にそって生きている。

私がそうだった。

適当に生きてきたわけなんかじゃなくて見えないとされる、生きている意味が見えた瞬間が私にはあったから。生きている意味が知りたいなんて神様でもなくせに傲慢なんじゃないかなとも思う。知る前に探す。それか待つ。そしたら見えるものもあるかもしれない。

それじゃ……だめなのかしら。

シーン3.5 朝朝はん 朝朝 昼

麻里 今日も朝早くに新聞ありがとうございます

央臣 うん、日課なもんで

(もくもく食べている、会話なし)

美優華 いつてきます

麻里 はい、いつてらっしゃい

(チラツと見ながら、カップをすすする、新聞のページをめくる)

央臣 もうすぐ誕生日だったよな

麻里 ええ、そうね。今年は忘れてないみたいでなにより

央臣 まあ、覚えてた……な

麻里 最近忙しいみたいですけど、ごはん一緒にたべれるといいですね

央臣 そうだな、久しぶりにどこか美味しいものでも食べに行くか

麻里 美優華の誕生日は絶対家で食べるって昔から決まってるじゃないですか

(少しうんざり)

央臣 そうだっ……たか、そうだったな

麻里 しつかりしてください、お・と・う・さ・ん

央臣 お父さんなんて呼ばれたことないかもしれないな、いつしかそう呼んでくれない
くなった

麻里 私と喋るときはお父さんって呼んでますよ？

央臣 そう……か

麻里 きにしすぎです、しょうがないことだつてあります、一緒にいる時間より存在
に意味があるんです、あなたは。それでいいんです

央臣 んん、難しいな。(時計を見る)そろそろ行くか
麻里 いつてらっしやい

シーン4 会社 昼

二人が歩いていく、書類に目を通していく

央臣 これは明日の会議にまわして

麴 はい！

紫乃 中央医学会の会議の開始時間が延長になりました

央臣 ありがたいな、麴、会場まで送って行ってくれるか？

麴 はい、大丈夫です

央臣 紫乃くんはBの6からDまでの資料に目通しといて、明日の会議でもらうか
ら

紫乃 はい、わかりました

そのまま会社外へ、歩いていく。車に乗り込む

男性(広斗)にぶつかる、物を拾ってあげる。助ける

シーン5 昼

(建物から出てくる二人、一礼して出てくる)

麴 HTM社との提携、うまくいくといいですね

央臣 そうだな、我社、久しぶりの大仕事だ

麴 はい！

央臣 これが決まれば会社はまた大きく飛躍する。
プロジェクトはお前に任せるからな

麴 ホントですか！頑張ります！やらさせていただきます！

央臣 たのむよ(二秒後に、頭をおさえる)

シーン6 夜

央臣 まだ起きてるのか

美優華 うん

(ネクタイ、ごしごし。チャンネル、ぴーぴー)

央臣 お母さんは？

美優華 寝た

央臣 大学しつかりいつてるか

美優華 うん

央臣 そうか

(美優華、動き出す、室外へ)

央臣 寝るのか？

美優華 うん

央臣 お、おやすみ

美優華 おやすみ(力なく)

シーン7 昼or朝

麻里 それ新しい薬ですか？

央臣 最近の流行病から悪化して死亡するケースがあつて、それについてかなり前から議論されてきてさ、ようやく薬が完成して、安全性にも許可が下りてね、あとは販売許可待ちなんだよ、最初は我が社の独占にできそうぞ

麻里 ミリフエント0218？

(書類を見ながら)

央臣 手のしびれから始まり、咳やめまい、頭痛の初期症状がある、その後、高熱や気を失うなどの症状に発展する、パツとみではわかりにくい病気なだけどね

麻里 こわいですね

央臣 まあ、こうやつて対策するしかないんだろうね、病気っていうのはさ。これで助かる人がいるんだから、早く世に出さねば。よし、なら行つてくるよ

麻里 いつてらっしゃい

シーン8 社内 五号館orホテル 昼

麴 社長！見てください！これです！僕が独自開発した新製品、ついに完成しました！

(ダダン！)

どんな奴に襲われても大丈夫！シユつと一吹き、グリズリーすらコロツとノックアウト防犯用スプレー「グリコロ」(またの名をグリコロちゃん、かわいいロゴで)

(紙芝居、画用紙で説明する)

央臣 ふむふむ、名前はおもしろいな、だが万が一、相手がこんなのをはめていたらどうする？さまざまな状況下においても力を発揮できてこそ一流の商品である
(ガスマスク装着)

麴 いやいや、社長、なかなかいいですよ、ガスマスク持つてる人なんて、あとグリコロ微粒子をなめんといてくださいよ

(麴がグリコロをガスマスクに吹きかける、なにもおこらない、央臣がグリコロを手に取り麴に吹きかける。麴、一瞬で倒れる)

央臣 紫乃くん、起きたら、販売協議は再検討して言っというて

紫乃 はい、わかりました

シーン9 会議にて 五号館 昼

紫乃 どうします？

央臣 (だんまり)

社員A 業績から見るとやっぱ難しいですね、相手も大手ではありませんし、のちのちを考えるところで業務提携、共同研究は得策ではないかと

社員B 確かに、業務提携でかんばしくない結果がでると今の時期厳しいものがあります
ます

麴 ですが、もしここでうまくいけば来年の決算にも大きく響いていくと思いますし、株主総会もいい方向に持って行けると僕は思います。そしてここで大きく出れたとすれば多くの他社に打撃が与えられるというのも視野に入れていくべきだと僕は思います

(悩み込む)

央臣 よしわかった、ここはH T M社と組もう、切り捨てるものは極力切り捨てる、明日の会議で詳しくは決めていく、今日はこれで

シーン10 廊下にて 五号館 昼

(央臣、板付き、書類見ながら何か飲んでいる)

紫乃 社長、いいですか？

央臣 どうした？

紫乃 今回の決議のことです、H T M社と組むことは加藤鉄鋼との契約を切るというのですよね？あんなに簡単に決めていいんですか？

央臣 やむをえないさ、我社を守るためだ、やらなくてはいけないときもある

ですが加藤鉄鋼の社長さんとは古い仲じゃないですか、しかも第一特殊業務提携だつて真つ先に契約してくれた唯一の会社なのに

央臣 そうだな

紫乃 それでもですか？

央臣 それでもだ。あの会社はもう潮時なのさ、非情も必要だ

(去っていく)

紫乃 (見つめながら、不安げで悲しげで怒りの表情)

シーン1 会社外 夜

央臣 (時計をみる。もう、かなり遅い時間)

(フツと息を吐き、歩き始める)

央臣 ううぐう

(頭を抑える、ひどい頭痛のような、のたうちまわる)

央臣 はあ、はあ……ああああ！うううう、はあ、はあ、は……

(地面に崩れる、もがく、プレゼントをおとす)

・後悔というのはいつも唐突でなにこともなく自分の身体を蝕み、壊していく
あの時ああしとけば、明日はなにするんだったか、気づいた頃にはもう後悔の
結果すら目の前を通り過ぎて、今自分がどこにいるのかすらわからない、

シーン12 及びシーン2.5

広斗 どう、思い出した？(間をおいて)蜘蛛の糸やりますか？

央臣 やらせてくれ

広斗 そう来ると思ってた、じゃあ、行こうか

(央臣と距離をとり8ミリ撮影機で全身を映す)

広斗 なら、いつてらっしゃい先輩

(パチパチ8ミリ演出、そのまま央臣は消える)

広斗 何百何千回目のはじめまして、全てのあなたを救うために僕はここにいます

シーン13 葬式後 家 夜

麻里 実感わかないわね

美優華 べつに(ケータイをいじってる)

麻里 (いろいろ整理しながら)ゼーんぶ懐かしいものになっちゃう

美優華 なにしてもらったとか正直あんまり覚えなし、存在だけっていうか

麻里 お父さんのことを悪く言うのはやめなさい！

美優華 私は事実を述べただけ、私は間違ってるない！

麻里 いいかげんにしなさい！

美優華 だつて、散々働いて、楽しみもなくて死ぬとか！バカみたい、ていうかバカじゃ

ん、自分の身体のことも考えずに急に死んで、わけわかんない

麻里 気は済んだ？もうそういうこと言うのやめなさいね

美優華 (苛立ちながら携帯を触っている)

出て行く、部屋を？家を？ 最後は帰ってくる、そんな女の子

シーン14 街のどこか 日、関係なし

善一 はい、もしもし、うん、うん、そうか、うん、わかった

(思わず立ち止まる)

(電話を切って手をおろしたら、約4秒静止)

(歩き出す、キリツとした顔)(顔に力を入れる)

シーン15 家 昼

仏壇に手を合わせる麻里、それを見かける美優華

机の上の父のコップをみて、むかつき「いつてきます」

麻里はかかってくる電話の対応、終わったら、ため息

ポーツとしてしまう麻里、けどがんばらなきゃ

帰ってきて父親のカバンが目につく美優華、中身を見て

難しい内容もなんかむかつく

シーン16 昼食、外 昼

(もぐもぐ、ぼーっとサンドイッチ、遠くのサンドイッチ)

美優華 ねえ

ほなみ ん？

美優華 ほなみてさあ、父親のこと……好き？

ほなみ まあ、好きだよ、いろいろ話すし、買い物行ったり……けど、もちろんムカつ

くこともあるよ、休みの日はどっかから漫画借りてきて読んで何って臭い時

もあるし！プライマイツて感じ、あ……ごめ……

美優華 ん？ああ、いいのいいの、私わかんなくてさ、あの人が死んでもなんか実感な

くて、ていうか何も変わらないっていうか

ほなみ ……。(どもる)

(遠くを丹下が通る、娘に手を振る)

(ほなみ、怒る)

ほなみ ほんとにごめん

美優華 こつちこそごめんね、急に変な話して

ほなみ きつとお父さんは美優華のこと心配したり、気になったりしてたと思うよ、表

面には出ないだけで、いろいろわかってるんじゃないかなあ、ただ恥ずかしいと
いうかさ

美優華 そういうもんかなあ、(もう私には一生わかんないのかな、それ)

シーン17 歩いている姿、バックに二人の声 いろんな場所 夕方か夜

広斗 今日からあなたは九城三郎太、男性、大学生で短期的に大興寺家に居候と
なる。親戚の伝子おばさんから少しの間、居させてやってほしいと大興寺麻
里に連絡が入っている、まあ詳しいことはこの資料に入っているから、他人の
身体だが、普通に生活すればすぐ慣れるよ

三郎太 なあ

広斗 ん？

三郎太 生きているときとなんら変わらん気がするが気のせいだろうか

広斗 この姿はあなたのもしかしたらなりえたかもしれない未来の姿の一つ。よう
は別の自分ななさ、この身体は数々の映画に出演したんだぞ？時には超能
力者、時には心の声が聞こえる悩める若者、時には不倫するお父さん、時に
は妻、子供に逃げられ自殺しようとする絶望サラリーマン

三郎太 (身体感覚を確かめる)

広斗 心配しなくても、あなたは今間違いない、大興寺央臣とは別人の九城三郎
太だよ

広斗 あと、ひとつ言い忘れていたが、自分が特殊な存在であるとか、本当は大興
寺央臣であるとかの情報他人に口外することは許されない、これは絶対
のルールだ

三郎太 わかった。だがもし方が一言つてしまったら？

広斗 蜘蛛の糸はちぎれる

三郎太 覚えとく。期限とかはないのか？

広斗 さあね、どうだろう

(表情)

広斗 まあビビりなさんな、神様は気紛れだからさ

三郎太 ずいぶん適当な神様だな

広斗 そんなもんでしょ、神様が全知全能だなんて西洋じゃあるまいに。

ココ イン ジャパン！アイラブヤオヨロズ！

シーン18 三郎太が家に来た 時間帯、要検討。夜？夕方？

母だつて深い悲しみを負う、それを埋める方法は彼女にはわからない。どうすればいいのか？今はただ目の前のことをこなしていく、ひたすらこなすしか方法は無いのだ、娘を守るために、自分を守るために

三郎太 自分の家に居候か、なんか変な話だな

(遠目から家と三郎太。ピンポン、ガチャ)

三郎太 こん……ばんは

麻里 あら、こんばんは、えーつと、九城三郎太くん……よね？

三郎太 そうです、あの、今日からお世話になります、九城三郎太です

(沈黙?)

麻里 まあ、入つて、どうぞ

(リビング)

三郎太 改めまして、九城三郎太です、大興寺さんちに居候させていただくことよろしくお願ひします

麻里 いらつしやい、なんか……緊張しちゃうわね、私は大興寺麻里ともうします、この子は娘の美優華です、ほら挨拶なさい

美優華 こんちわ

(三郎太の表情)

(ここから全体的にテンポ早く、流されるように)

麻里 くら、しつかり

(美優華、携帯をいじっている)

麻里 もー、ごめんなさいね、伝子おばさんとの……ね、知り合い？おばさんのいとこのとかなんとかだったわよね？しかも央臣さんの単身赴任先で面識があるのよね？

三郎太 あ、はい、その節はお世話になりました(ごもりながら)

麻里 これも何かの縁よね、あ、もしかしてお腹減つてる？何か作りましょうか？

三郎太 いえ、大丈夫です

麻里 そーだ、部屋に案内しなきゃね、三郎太くんが寝たりする場所、

こちらへどうぞ

三郎太 はい

(終始、興味がなさそうな美優華、だが最後は気になったように見る)

麻里 ここです、全然自分の部屋のように使つてくれて大丈夫だから、なんかあつたら何でも言つてね？明日は大学の初日だからよく寝れるといいわね

三郎太 はい、ありがとうございます

(部屋をあとにする麻里、残される三郎太)

(落ち着かないような落ち着くような変な感じの三郎太)

シーン19 朝、リビングにて 早朝なので夜でも良い

(麻里がリビングにやって来る、すると明かりがついている)

(リビングの奥では新聞を読む二郎太)

麻里 あら

二郎太 あ、おはよう………(ございませ)

麻里 新聞………?

二郎太 あ、すみません、勝手にとっちゃって

麻里 いいの、逆にありがとね、そんなに早起きだとは思わなくてごめんなさいね

二郎太 いえ、こちらこそ、すみません、あのコーヒーまで自分でやっちゃって

麻里 あ、だいじょうぶですよー

(央臣が使っていた湯呑^ニカップが机の上)

シーン20 六号館 昼

丹下 いやーいやいや、どうもどうも、遅れちゃってゴメンね

丹下 よいしょつと、えーつとー、九城二郎太くん?でいいんだよね?

三郎太 はい

丹下 僕はこの大学の職員の丹下右堂ついでいます、よろしくおねがいますー

(お互い一礼)

丹下 まずはそうだなあ、んんん、コマけえことは良くてさ、大学内を歩きながら

紹介するよ

この大学は縁が多くてね、都会にあるような大学とは一味違うんです、

教室も木でできた机がなんかよくてね

そしてサークルにも力を入れていてね

シーン21 サークル棟

(コンコン)

丹下 ここが我が大学自慢の演劇部です!

一同 こんにちはー

三郎太 あ

美優華 あ、どしたの?

三郎太 大学案内してもらってます

丹下 あれ?知り合い?

三郎太 家に居候させてもらってます

丹下 そうだったのかあ、実は彼女はこの演劇部以外の劇団にも参加して、賞を

取ったりするぐらいすごい舞台女優なんだよ

美優華 やめてください、そういうの

丹下 あはは、ごめんごめん。じゃあ、次は映画研究会を案内するよ
(扉を占める)

シーン22 第2サークル棟

(螺旋階段から降りてくる感じ)

丹下 どうかな？この大学のこと分かってくれたかな？

三郎太 はい、まあなんとなく、でも気になるのはこのサークル棟のセキュリティの問題だつたり、教員の対応の質、大学教授の人数や質も重要でしょう、実際に勉強する教室の設備、図書館の充実さ、快適さ、あとは授業カリキュラムの制度や種類、いかにこの大学で何を学び、何を得るのか、学生の就職率や就職対応、ふーっ、とかとかとか

丹下 はい……………あの……………説明しさせていただきます

シーン23 大学内 外 予定では自販機 昼

(美優華、外で休憩中)

小次郎 こんにちは

美優華 ああ……………こんにちは

小次郎 たまたま用事で近くまで来たんで

美優華 近衛さん、ひまですネ

小次郎 はっはっは、そんなこともないんですけどね、調子どうですか？

美優華 正直、あんまりよくないですね、頭痛やらしびれみたいのが最近激しくて

小次郎 あまり無理なさらずに

美優華 もうすぐ定期公演なんで、そんなこと言ったららないです

小次郎 あと、あの話も

美優華 はいはい、わかってます、すぐ答えなんかでないって言いましたよね？

小次郎 それは重々承知していますよ……………では、またきます

(小次郎は立ち去る、美優華は無視する)

シーン24 家 夕方or夜

(仏壇に手を合わす麻里、背後の三郎太には気づかない)

(思わず立ち尽くしている三郎太)

麻里 ああ、おかえりなさい

三郎太 ください……………ま

麻里 あ、おかえりなさい(仏壇をみて)三郎太くんに言ってなかったわね、

央臣さん、(仏壇に振り向く)

この間……亡くなつてね、でも三郎太くんに話すことじゃないわね、
(相槌)

(仏壇の前に行く、央臣の写真を見ながら)

三郎太 なあに、死んでんの……なあに悲しませちやつてんの

(頭ゴシゴシ、全体的に長めに)

麻里 あ、三郎太くん？

三郎太 はい？

麻里 嫌いな食べ物とかつてあるかしら？

三郎太 あああ、セロリです

麻里 セロリ……そう、わかり、ました

シーン
仏壇、家にて 夜

ピンポン

麻里 はーい、あら、こんばんは

紫乃 こんばんは、ほら

麴 こ……こんばんは

紫乃 社長のお仏壇……拝ませてもらつてもいいですか？

麻里 どうぞ、してあげて

(なかにはいる)

紫乃 こんばんは

美優華 あ、紫乃さん！麴くんも！こんばんは

麴 こんばんは(テンション低めに)

(仏壇の前に座る)

麴 改めて前になると実感してしまいますね

紫乃 ほんとにね

麴 僕、社長が死んだの全然信じれなくて、

紫乃 ようやく来れたのよね、情けない

(二人とも手を合わせる)

麴 けどほんとに残念です、

(お茶をもらう、座る)

紫乃 そちらの方は？

麻里 家に居候してる九城三郎太くん

三郎太 こんばんは

紫乃 こんばんは

(麴もお茶をもらう)

翹 今度の講演会、ホントどうしようかなあ
麻里 そういえば、そんなこともあったわねえ
紫乃 そんなに悩むならやめとけばいいじゃない
翹 んん、そんな簡単じゃないですよ、これからどうすればいいんでしょう

シーン26 家の外にて 夜

(家から出てくる二人、見送る麻里)

麻里 いい社員を持ったわよね、ほんとにありがたいわ

(少しはにかむ三郎太)

美優華 何笑つてんの？

三郎太 いや、なんでもない

シーン27 大学にて授業をうける 二号館 昼

(葉学？なんでもいいかも、そのかわり専門分野)

三郎太 授業っていうのはこんなに少人数でするもんですか？

美優華 まあ、出席率は良くない授業ね

三郎太 なんともつたいない、授業面白いのに、近頃の若者は！

先生 じゃあ、ここわかる人

(三郎太は答えてしまう、先生を凌駕する)

美優華 あんたキモいね

三郎太 僕はこれで会社を…

(黒板の隣で広斗が口を手を当てている、そのせいで喋れない)

三郎太 もーもーもー

美優華 ん？なに？

三郎太 趣味で勉強しました

美優華 うーわ、更にキモい

シーン28 大学内 道 昼

みどり ねえ、最近隣にいる人だあれ？彼氏？

美優華 やめてよ、違うから、まずタイプじゃないし

みどり で、だれなのよ？

美優華 最近なんでか知らないけど家に居候してる九城三郎太って人

みどり 一つ屋根の下で？きゃー！なんか起きちゃわないの？

美優華 やめてよ、気持ち悪い

みどり なら私がとるよ？

美優華 どうぞ、とれるもんならね

みどり どういうこと？(ジロリ)

美優華 ああ見えて、かなり堅物だから

みどり ふーん、でもそこがまたいいじゃない！今度紹介してよね！

美優華 はいはい、わかった

(みどり走り去る、ちよつと笑う美優華)

シーン29 あつみちゃんち 昼

男性 ねえ

女性 なに？

男性 だいじょうぶかなあ？

女性 なにが？何を懸念してるの？

男性 なんかだつてさ

女性 もう、ここまでできてやめてよねえ、しつかりしなさいよ

(バシツ)

男性 うん、がんばるけどさ……

女性 がんばって！私だつてフォローするから！お父さん怖い人だけど！

男性 ほらー、そういう事前情報になかったこというー……。

シーン30 家♀外 朝

(自販機のくんだり)

広斗 どうしたのさ？浸つてる？

三郎太 いや……単純に、いつまでもこの身体ではいられないんだよな？

広斗 そりゃそうさ

三郎太 てことは娘の結婚相手も結婚すらも見れない、もし孫ができてもそれも見えない、なんかこんなこと生きてるときは考えたこともないし、なんか考えると寂しいもんだなつて

広斗 生きているということはそれだけ満ち溢れるものがあるということだ、それに気づけるかどうかで人生はまた大きく変わってくる、だが難しいものさ、大半の人間ができないことだからね、あんたみたいに死んでから気づく人間もいるんだからな

三郎太 そうだな、なんとも……なぜ人生はこんなに難しいのか

広斗 ま、そんなことよりあんたは今を生きなければいけないのさ、余計なことを考える時間なんてないさ、スローライフのためにあんたに身体を貸したわけではないから、

三郎太 そうだな、がんばるよ

シーン31 第一サークル棟 昼

広斗 久し振りですね

サン そうだな

サン この世界の奴はそれほどの価値の人間だったのだろうか？

広斗 偉大で不器用な父親ですよ

サン だがどれだけ偉大でも第二の人生を少ない時間で全うできるとは限らん

広斗 僕が手を出しすぎれば

サン その時点でお前が成し遂げたいことは全部水の泡。生きとし生けるものは自分で生きる道を作り出し、自ら修正しなければいけないのだ。

お前の目的………忘れたわけじゃないだろうな？

広斗 流石に忘れたりはしてないですよ、そのためにこうやって地道にやっています、
厳しい道中ですからね

サン ふん、つくづく信じられん、この途方もない作業を選ぶなんて

広斗 そういうサンだつて付き合ってくれてるじゃないですか

サン やむをえずだ、好きでやってるわけじゃない

広斗 はいはい、だけど決めたんだ、先輩を救うってね、いやみんな救うって。先輩も
百合も真城さんも全員、そうじゃないと僕の人生に意味がないんだ

サン くだらない、実にくだらない。お前の生に対する執着、つくづく馬鹿らしい

広斗 まあまあまあ、そう言わずに見届けましょうよ、この世界の九城三郎太を

サン (だんまり、ムムム)

広斗 意外と面白いですよ、どの世界線にいたって全く変わらないんですよ、あの人名前が違つても、奴は奴だからな。名前なんてものは存在に不必要で意味をな

さないただの記号であるものだ

広斗 そうですね、そのとおりです

サン 介入しすぎるなよ？見守るだけにしろ、目的のためにもな、フィッシュヴィレッツ
ジ、いや、トトか

広斗 その呼び方嫌いなんすよ

サン お前は銃を欲しがらないからいいな

広斗 僕は先輩みたいに物騒ではないですから

サン (消えていく)

広斗 やってくれると信じてますよ、先輩

シーン32 学内

ゴン太 お前さあ……最近疲れてんじゃね？

美優華 なにか？

ゴン太 なにかつて……なにか？

美優華 は？意味不明、キモ

ゴン太 キモつてなんだよ！

美優華 急にうるさい！

ゴン太 すいません

ほなみ ゴンちゃんつてなんか、なさけないね

ゴン太 なあにつーうるせーよ！

(美優華とほなみは立ち去る、ゴン太頭ゴシゴシ)

(二郎太が来る)

二郎太 おい

ゴン太 ん？

二郎太 美優華に手を出したら、粉々にするぞ

ゴン太 え？

二郎太 粉々にするぞつて、コナゴナ！(言い方)

ゴン太 は、はい

シーン33 家 夜

二郎太 美優華……さん

美優華 なに？呼び捨てでいいよ

二郎太 お父さんのこと……どう思っていました？

美優華 なんてそんなこと聞くの？しかもなんでそんなことあんなに言わなきやいけ
ないの？

二郎太 なんとなく

美優華 別に、なあんとも思っていない

二郎太 あ、そうですか

美優華 お母さん、お風呂いけるー？

麻里 いけますよー

二郎太 なら、ゴン太つてやつのはどう思ってる？

美優華 ゴン太？サークルの仲間的な？

二郎太 恋愛とか

美優華 ありえない、かんべん

(風呂へ行く、フレームアウト)

(二郎太、ガッツポーズ)

シーン34 家のリビングにて、美優華の風呂後 夜

(三郎太、黙々と勉強)

(美優華チラチラ、ゴソゴソ)

美優華 それ課題？

三郎太 いや、自習

(間を置いて)

美優華 よくがんばるね

三郎太 大学の勉強というのは何にどう役立つかわからんから、もう使う場所もないだろうけど

(聞いてない美優華)

三郎太 そつちこそ、それ台本？

美優華 そう、もうすぐ定期公演があるから

(うなずき)

三郎太 演劇楽しい？

美優華 なんで？

三郎太 なんてって、ずっとやってるんでしょ？

美優華 まあね、いつの間にか続けてた

三郎太 そういうの大事なんだろうね、熱中するものがあるというのはすばらしいことだ

美優華 ふーん、そういうもんですかね

普通の家族なら味わっているかもしれない日常は自分の知らなかったことばかりで、今自分が別人の身体で味わっているというのはどこか変な感じだった、戸惑いを隠しながらもこの日常をこなしていく自分はずくづく幸せものなのかもしれないと再認識するのでした。

(ブラックアウト)

シーン35 浜松

善一 (部屋に帰ってくる)

(部屋が暗い)

(グラスにお酒、すべてゆっくり、そのまま一気飲み)

(ため息、ジャンプショット使う)

シーン36 ベンチにて 昼

三郎太 ふー

広斗 なになになにー、うまくやってんじゃんか

(頭を上げると女の子)

三郎太 へ？え？(あたりを見渡す)

広斗 どこみてんだよ、広斗だよ

三郎太 なんで？

広斗 なんでじゃないよ

三郎太 別人じゃん、女の子じゃん、みきていーじゃん

広斗 俺だつていろんな仕事してるのさ、前の仕事でたまたまね、ちよつとミスつただけだよ、少しの間、身体入れ替わっちゃつて

三郎太 もうなにしゃべってるかわからない

広斗 (隣に座る)どう？この生活にも慣れてきた？

三郎太 どうにかがんばつてはいるよ

広斗 いつ終わるかわかんないから精一杯やんなきゃねえ

三郎太 こんなに大変なのは会社を立てた時以来だ

(回想)

広斗 けどそのがんばりで多くの病人を救った、その人たちの感謝であなたはいまここにいるのかもしれないね

三郎太 だつたらありがたいな、頑張らなくては

広斗 その意気だ

広斗 あんたならできるさ、三郎太先輩

三郎太 先輩？

広斗 おつと、昔の癖で。次授業でしょ？、じゃあまた三郎太 (不思議そうに)

(子供に遠くから見られている、歩いてくる)

美優華 へえー、もうそんな感じの子がいるんだ

三郎太 え？ちよつとまで、あれは

美優華 いいのいいの、男つて盛んよね、ほんと、くそか

三郎太 勘違いはよくない！おい！、まで！

シーン37 一号館階段 昼

美優華 このあとは？

三郎太 まだ授業がある

美優華 あつそ、慣れないだろうけどがんばつて

三郎太 そつちは？

美優華 今からサークル、演劇の練習

後輩 おはようございまーす

後輩 おはようございます

(サークルの後輩たちが通りすぎる)

美優華 おはよう、ならまたね

茉奈 あ、美優華じゃん、三郎太くんだよね？こんにちは

三郎太 こんにちは

茉奈 今から行く？

美優華 行くよ

茉奈 なら私も一緒に行こつかなー、ではではー

(手で挨拶、背中を見送る三郎太)

シーン38 演劇部室 昼

演劇練習中

美優華 (急にふらつく) ちよつとごめん

外にて

美優華 ふー

(手のひらをグーパーする、そのあと頭を2、3回振る)

はーっ (ため息)

ほなみ 大丈夫？

美優華 ああ、ごめんね、急に練習止めちゃつて

ほなみ みんなにはちよつと休憩つて言つといたから

(うなずき)

ほなみ 最近、調子悪いみたいだね

美優華 頭痛と手のしびれがね、なんかひどいのよね、色々考えないといけないこと

も多いし、疲れちゃつて

ほなみ しびれとかのは病院いかないの？

美優華 いったけど、疲れだつて言われてさ、だから大丈夫、大丈夫、こんなはどう

ことないよ

ほなみ ならいいけど、無理しないでね

美優華 もうすぐ定期公演だもん、負けてらんないよ、最後だしね。さて、がんばろう

うがんばろう

(建物の中に先に入る美優華、心配そうなほなみ)

シーン39 ラウンジかどつかの座れるとこ 昼

ほなみ 三郎太……くん？

三郎太 はい、ああ、ほなみさん

ほなみ 最近の美優華、家でなんにも変わらない？

三郎太 特には

ほなみ そう、ならいいんだけど、この前ね演劇の練習中、急にめまいがして倒れそうになってね

聞いてみたら頭痛と手のしびれがあるって言うてさ、しびれなんてそうそうないじゃない？なんか心配になっちゃって

三郎太 ほかに見えていて気になった症状とか、しぐさとか気づいたことなんでも教えてもらっていいですか？

シーン40 二号館教室

GFの……

エナジー はい次

学生 おねがいします

エナジー はい、ふむふむ、はい「GF」

学生 え！Gって！ん？合格？不可？GF？

エナジー なに？これで？Cもらえる？なに？ばか？

(トボトボ帰る)

エナジー つぎー

三郎太 おねがいします

エナジー ふむふむ、古代ヒサキ文字について書いたのね、あなたわかつてるじゃない

(下むいたまま)

三郎太 ありがとうございます

(顔を上げる)

エナジー あなた……

三郎太 ？

エナジー 勤勉なところはどの世界のあなたでも変わらないのね

三郎太 人違い……じゃないですか……？

エナジー いいのよ、こっちの話

(一礼して立ち去ろうとする三郎太)

エナジー あとね、あなたは忘れてるだけよ、思い出しなさい、前の自分のこと

三郎太 え？

エナジー ミリフエント0218

三郎太 ミリフエント、ミリフエント、ああ！

(走って部屋を後にする)

エナジー でも、どの世界のあなたも世話が焼けるのは変わらないのね

シーン41 家 日、不明、検討

三郎太 家にて

(ガサゴソ漁る、書類の束を見つける)

三郎太 これだ

(書類をめくる、中身を読んでいく)

三郎太 やるしかないな

(カバンの中から、キーなどを取り出す、最後にガスマスク)

シーン42 会社にて、忍び込み 昼

会社は夜のセキュリティを強くしてある、昼間は警備員がいるが夜にはいないからだ。だから侵入は昼間のほうがいい、運よく今日は確か特別休業日、警備員の人も休んでる、だから誰もいないはず。

(ピツ、入り口が開く、央臣の顔はうつさない)

(忍び込んで奥に進んでいく、薬の部屋にたどり着いてから探す、見つける)

三郎太 あった、ミリフエント0218

麴 う……動くな……

(後ろに、麴がいる)

麴 抵抗するな、こっちにはお蔵入り防犯用スプレー「グリコロ」があるんだぞ
侵入者！(おびえている様子)顔面に食らったらおしまいだぞ！

(三郎太、振り向く、ガスマスク装着済み、ダースベイダーでもいいかも)

麴 Fuck!!

(薬をポケットにしまう、脅かす、がおおー)

三郎太 ひー！

(三郎太走って逃げる、麴、追いかける、麴が先回りする)

麴 逃げるのはおしまいだ、おとなしく観念しろ、侵入者！

(階段の上と下で対峙する)

三郎太 麴、お前が俺の邪魔すんなよ

なあにが邪魔すんなよだよ！残業でようやく帰れるかと思ったたらあんたが

きたんだろ！つてなんで俺の名前知ってたんだ！

三郎太 ヤバツ！（構える）

麴 えっ（構える）

三郎太 (セーフか)

(沈黙)

(静かに翹からグリコロをとり、翹にかける、翹、倒れる)

三郎太 やっぱ販売中止だな

シーン43 五号館ラウンジ 昼から夕方へ

翹 つは！(隣にガスマスク三郎太)つは！

(水のペットボトルを渡される)

翹 ああ、ありがとうございます

翹 はあああ

三郎太 どうかしたの

翹 この会社の社長が死んじゃってね、最近、恐怖しかなかったんだ、すべての出来事が目まぐるしくしてき、何もかも投げ出したくなっちゃって

(たたく)

翹 なあにすんだよー！

三郎太 甘えたこと言ってるんじゃない

今お前が何もかもやめてしまつたら会社も社員も路頭に迷う、だが前社長がいなくなつても会社も社員も路頭に迷わなかった。それはお前がいたからだ
お前の部下からの信頼や、お前の努力が今を支えているんだよ
後継者は最初からお前にするつもりだったしな

翹 え？

三郎太 いやいや、気にしなくていい

翹 けど、そつか、俺……がんばれてたんだ

翹 これからなんすね、全部

三郎太 がんばれ

(ガスマスク三郎太、立ち上がる)

三郎太 じゃあ、行くわ

翹 その薬あげます、必要なんですよね？安全性は大丈夫ですから安心してくだ
ださい実は央臣社長もそういうことしてましたし、けど絶対内緒にしてくだ
さいね

(グーサイン)

翹 もしかしてですけど……

(二人を広く)

翹 いや……ありえないつすよね。がんばりますよ俺

なんかありがたいとうございました

(三郎太が立ち去る)

翹 あ、紫乃さんですか？今外ですよ？急で申し訳ないんですけど

シーン44 学内にて 数学科前など 昼、夕方

美優華 あ、紫乃さんじゃないですか

紫乃 あら、美優華ちゃんじゃない

美優華 大学に何か用でしたか？

紫乃 今度の大興寺メディスンの講演会、翹がやるって言ったから、急遽その打ち合わせにね、あの子、急にやる気になったって電話かかってきて、ほんとに急すぎて困るわよ

美優華 へえー

紫乃 もう帰り？

美優華 今日は演劇もお休みで帰ります

紫乃 そう、なら家まで送ってあげようか？

美優華 ほんとですか？やったー！

シーン45 車内にて 昼

紫乃 ちよつと寄りたいところあるんだけど

美優華 いいですよ？

シーン46 岡崎の公園、要検討

紫乃 この場所ね、私が大興寺メディスンに入社が決定した思い出の場所なの

(美優華の表情)

(たまたま通りかかる三郎太、立ち止まる)

紫乃 いつも社長は家族のことを第一に考えてた、けど自分の家族限定ではなく、社員の家族のことも大切に思ってた。でもほんとに死んじゃったのね。会社や社員中心で不器用なところがたまり溜まって父親失格に見えるのかもね、未だにお父さんのこと悪く思ってるでしょ、顔見たらわかる

美優華 別にいいんですけどね、何ら変わりませんもん、私、あの人のことあんまり知らないし

紫乃 わかんないわよねー、その歳じゃ、社長のすごさは理解できるはずないわ

美優華 どういうことですか？

紫乃 会社の経営ってね、そんな生半可のことじゃないのよ？私にはまだできない、勉強も経験もたりないからね、けど私の歳で社長は会社をもう立てていたわ、この時点でもう負けてるのよ？もう勝てないの、時間は元には戻せないから

美優華（むむむ）

紫乃 どれだけあなたのために奥様のために社長が頭下げて、罵られて、地面這いつくばってきたと思ってるのよ、どれだけあの人がこの製薬会社の世界に革命を起こしてきたと思ってるの？あなたその歳で少しも知ろうとは思わなかったわけ？自分の父親が何を成してきた人かってこと一回も疑問に思わなかったの？

あなたのお父さん、すごい人なのよ。社長を……少しでもいいから理解してあげて

美優華 言われなきゃ伝わらないもん、わかんないもん

紫乃 甘ったれないでよ、言われる前に聞きなさいよ！もつと私だつてあの人のもつと働いていたかった、もつといろいろ教えてほしかった。私は聞いたのに、教えてくれないことも多かった、いつも麴を可愛がってた、私が聞いても答えてくれなかった、それが悔しかった、どこが足りないのか教えてほしかった

ごめんね、ちよつと飲み物買ってくるね

（三郎太、陰で聴いてる？）

（紫乃が車に帰ってくる、そこに手紙をおいていく三郎太）

紫乃 ちよつと、あんた何してるのよ！

（すかさず走って逃げる三郎太、ガスマスクを落とす）

三郎太 なにもしてないよー

（紫乃が車の手紙に気づく、中を開けてちよつと読む、あ！的な）

シーン47 大興寺メデイスン社長 講演会 二号館大教室

麴 こんにちは、今日はこのような場所を設けていただき本当に感謝しています

みなさんご存知のとおり、今日この場所に立つはずだった人はもうこの世にいません。

私は悩みました、この会を中止すべきかいなかを。悩みに悩み抜きました、悲しみ遠くをなしてしまいました。そんなある日、とある人に出会いました。その人のことは事情があつて詳しくお話できませんがその人は言いました「今お前が何もかもやめてしまったら会社も社員も路頭に迷う、だが前社長がいなくなつても会社も社員も路頭に迷わなかった。お前がいたからだ。」

衝撃でした、こんなところで僕だけ終わるわけにはいかないんだ、あの尊敬した、夢見た人のあとを継いでいつて次の僕を生み出すという大きな仕事をしなければいけないんだ、大臣前社長が作つてこの会社を守るのはは紛れもない僕なんだと気づいたんです。自分の仕事を全うするという事でこの会を中止にすることをやめました。継続というものとこれからのこの会社の未来、この業界の未来について、私、新社長田所麴が大興寺大臣から学んだことを今日は皆様にお話したいと思

います。

シーン48 二号館一回通路 日、関係なし、から夕方
講演会終了後

紫乃 やればできんじゃないん

翹 (照れる)

紫乃 とある人つて誰？いつ会ったの？

翹 この前の特別休業日です、あの電話した日！けど、その人泥棒っていう

紫乃 ええ！大丈夫だったの？

翹 うん、まあ、薬あげちゃったけど

紫乃 なにあげたの？

翹 ミリフエント0218

紫乃 ばか！まだ販売許可降りてないじゃないの！

翹 ばれなきやいいの！社長もよくそういうことしてましたし、しかもミリフエントは効果については安全性も保障されてるし

紫乃 (あきれる)

翹 なんか、その人、社長に似てた気がするんですよ、むしろ社長だったんじゃないかな
かっつて

紫乃 顔は見えないの？

翹 ガスマスクしてたから

紫乃 へえ、ガスマスク、ガスマスク……あ、

翹 え！

紫乃 社長つて、確か自分専用のガスマスク持ってたよね
(顔見合わせる)

二人 まさかねえ

(二人の背中を見送る、央臣か三郎太)

(少し歩いてから、外)

紫乃 私ね

翹 はい

紫乃 この会社辞める

翹 え！どうして！

紫乃 もう一度ゼロになって、なにかを成し遂げようかなって、あんたからはこの会社を奪う自信もないし、奪うべきではないし、ゼロになる勇気なかったし、まだ何やるかすら決まってるないけど、ようやく私もいろいろ吹っ切れたから

翹 そうですか、(間をおいて、表情)さみしくなりますね

紫乃 あんたには負けないから

麴 僕だつて紫乃さんなんかになんかに負けませんよ

(二人、立ち去る)

シーン49 研究室 日、関係なし

(顧客に挨拶の風景、ひきから)

真城 どうかされましたか？

善一 いや、大丈夫

真城 無理なさらずに

善一 ありがとうございます

(長い間)

善一 友人をなくしたら何をすればいいのだろうか？物のように新調するわけにもいかない、時間ごと消え去ってしまったかのようなこの感覚は……どうすればいいんだろうな

(長い間)

真城 何もしないのが得策です、でも何もしないわけにはいけませんよ、

だけど一回だけでいいんでよく寝てください、そして目が覚めたら、そこから時間をかけてその友人の死を受け止めてください、怒り、悲しみ、寂しさ、楽しさ、嬉しさ、いつどんな時でつきまといます。でもそれを、逃げずに……必ず噛み締めて、どうかその人を忘れないであげてください

善一 そうか……そうだな

真城 ご挨拶だけでも、行かれてはどうですか？私もついていかせてください

善一 ありがとうございます、そうしてみるよ

シーン50 家 夜ヨリ夕方

・居間にて 麻里と三郎太、二人での食事

二人黙々と食べる、メニューはコロッケ。

麻里 おいしいですか？

三郎太 おいしい……です

麻里 昔ね、初めて央臣さんとデートして食べたのもコロッケだったんです。駅の裏にある「三栗」っていうお店で食べたコロッケ、後日それを真似して家で作ったら央臣さんとても喜んで食べてくれたの覚えてます。コロッケの日だけは絶対仕事から帰ってきて家族三人で仲良く食べましたよね

三郎太 そうな……？

麻里 そうしてね、食べるときはいつも央臣さんわざとフォークとナイフで食べるんです、そして少しだけケチャップをつけるの

(お互い顔を見る)

麻里 あの玄関を開けた時からなんとなく気づいてました。この人のこと知ってるって。そして生活していくうちに癖とかが全く一緒ってことに気づいたんです、伝子おばさんから頼まれた記憶も私の中で曖昧だったし、どこか隠し事してるそぶりも多々あったし

三郎太 (フォークとナイフを置く、)

麻里 なんかない事情があるんですよね？けどこれは神様が央臣さんにあげた最後のチャンスなんですよ？

三郎太 散歩に行きませんかと切り出す

・散歩道

麻里 またあなたとこうやって散歩に行ける日が来るなんて夢みたいです、最近はずっと忙しくて行けませんでしたもんね

シーン51 岡崎 川べり 夕方 堤防、草の上

全体的にスローで

麻里 ねえ。待つてくれますか？あと何十年かどうかわからないけど、いつか私がそっちへ行くまで。央臣さん、まってくれる？

三郎太 …うん

麻里 ずっと？

三郎太 …うん

麻里 何年かかるかわかりませんか？

三郎太 …うん

麻里 ほんとに？

三郎太 …うん、(長く間を)ほんとに

麻里 なら私、これからもがんばれます、いつかそっちいつてもまた幸せになれるんですもんね。だから美優華のことまかせてください、心配しなくても大丈夫ですから

三郎太 …うん、麻里さん、めいわ…

麻里 やめてください

三郎太 …！？

麻里 私、ずっと昔から、あなたと初めて会ったときから……駆け落ちしたあの夜から、たつた今この瞬間も幸せですよ？少しの間でも私や美優華のために帰ってきてくれてありがとうございます。

私はそれだけで十分です、もう何もいりません

三郎太 …うん、うん。そうか。よかった。

麻里 さあ、帰りましょうか、コロッケ食べましょ。また温めなおさなきゃ

(高めの場所から堤防をずーっと歩いていく、肩をさすられながら)

三郎太 麻里さん、そんな強い人だったんだね

麻里 私が強いんじゃないです、母親という存在が強いんです

語り

・別れというのはいつも突然ふってくる。言いたいことも言えずに幕は閉じられる。

そう決まっているらしい。だって死は非日常なんかじゃなく日常なのだから。

だがもし最後に言いたいことをいえるチャンスがあったら、どれだけ残された人の悲しみを減らすことができるだろう。どれだけそれが幸せなことだろうか。

・あなたの前でくらい笑っていたい。

まして最後なら、なおさら笑っていてあげたい。

きつと一番つらいのはいつもあなただと思っから。

それが少しでも和らぐなら、私は笑ってあなたの隣にいてあげたい。

(笑いながら「飯を食べるシーン」)

全部が思い出、その全部の思い出で私は生きていける。

これからあなたとの思い出がたとえ増えなくても今までの分があるから、

それだけで十分、私は生きていける。

シーン52 妻とのシーン後

朝から始まって、今までどおりの一日をこなして終えていく、サーッと流し流し
緩すぎずかつ、強すぎず、だけど今日で終わると確信している、もう死ぬ準備が
できているからこそでる満足感、怖いものでもないし、なんら特別なことではない
ということ、何かを書いている

シーン53 プラット?にて 夕方or昼

(呼ばれて出てくる美優華)

美優華 どうしたの?

三郎太 はい、これ

美優華 なにこれ

三郎太 薬、ほなみさんとかみんなが心配してたよ、しびれとか頭痛激しいんでしょ?

美優華 まあ、でもだいじょ

三郎太 飲んでください、お願いします

美優華 はい

三郎太 ……それじゃあ、練習がんばって

(走って遠くに見えるくらい)

美優華 ねえ、どこ行くの!

三郎太 帰るんだよ

美優華 ほんとに？

三郎太 ああ

美優華 家帰ったらいる？

三郎太 練習、はじまるよ

美優華 ねえー

シーン54 場所不定

・場所変えて

広斗 どう、満足？

三郎太 幸せだった、父親らしいというのは最後までわからなかったが父親になれた気がした、会社の部下にも会えた、妻もわかってくれていた、十分な気がする

広斗 そうだね、ご苦労さま。これにて蜘蛛の糸は終了です

三郎太 うん、感謝するよ

(握手？)

広斗 やっぱり生前の行いがよかつたんだよね、生前の自分に感謝すればいいさ、なら行きましようか

三郎太 これ、美優華に渡してといてくれるか

広斗 (うなづく)

(三郎太頷きながら、身なりを整えながら歩き出す)

シーン55 いろいろ 迷い中 例のシーンを最大限に！

(家に帰ってきたら三郎太はもういなくて、手紙だけがある、三郎太を探すシーン)

あなたが生まれた時、私は喜んで、嬉しくて嬉しくて病院で飛び跳ねました。毎日毎日、病院に通って、さすがに鬱陶しいって麻里さんに言われたのを今でも昨日のように覚えています。

そんな両手で抱けるほど小さなあなたはいつのまにか大きくなって、私から離れていきました。けど本当は私が離れていったということ私自身は気づいていました。

気づいてそれからあなたとの関係を取り繕うにもうまくいかずどんどん距離は離れ、取り返しのつかないところまできてようやくよく思いました。私はあなたの父親だったのだろうか。もつとあなたにいろいろお話して、いろいろ一緒に食べて、いろいろ笑っていたかったのに、なんでこうも自分で難しくしてしまったのか、それを今でも後悔しています。

けれどそんな遠くのあなたは演劇に熱中しているみたいですね、私はそれをとても嬉しく思います。

小さい頃に家族で見た演劇のあとに「私、舞台に出る人になる」と言っていたのを昨日

のように覚えていきます。まさかそれが実現しそうだと言ったときはとても驚きました。

でも打ち込めるものがあるというのはとってもいいことで私の人生になかった部分、私があるために一番教えたかった部分をあなたは自分で成し遂げていたことをとても嬉しく思います。

あなたは私の自慢の娘、どうかあきらめずに自分の好きなことを全力でやりきってほしい。知らないあいだにいい娘に育ってくれてありがとう、ダメな父親でごめんなさい。最後に、遅くなりましたが、お誕生日おめでとう。

いくら探したって、多分もうどこにもいないのはわかってる。

だけど走るのをやめられない自分がいる。

もしかしたらにかけてる自分がいる。

また私になにもいわずに去っていくつもりなんですよ。

なぜそんなに不器用なの。

なぜそんなに私を人を傷つけるの

直接言っただけだった、誕生日おめでとうもあきらめるなも、がんばれも、なにもかも全部、全部。

今、どこにいるんですか？もう会えないんですか？

シーン56 場所不定、ぶらっとでもよい 昼

美優華 どうも

小次郎 こんにちは、回答をいただけるんですね

美優華 私、決めました

小次郎 そうですか、それはいいお返事なんですか？

美優華 やります、私やってみますよ、だからよろしくお願いします

小次郎 そうですか、僕も精一杯尽力いたします、美優華さんの頑張りも必要なので美優華 はい、やるだけやってみます

シーン57 いろいろ 悩み中

・人生はあつという間に過ぎ去る。

(善一も入れる、いろいろな映像)

人間なんて小さな存在で家族なんて更に小さいものだ。

この小さなもの大切なんかはわかるわけがない、話をすれば誰もが信じようとはしない。だが死だけはいつもその隣にいる、その小さなものを奪う準備をしている。

それだけは忘れてはいけない。でももう一つの隣に、生きていても、死んでいてもどんなときでも、僕はあなたのそばにいる。

写真のエンディング